

「人を見かけや身なりで判断してはいけませんよ」。子供の頃、母はこう言っていたが、今や「人を見かけが何より大事。第一印象があなたの未来を決める」というように、日本は大きな変貌を遂げてしまったようだ。

母の言葉を裏返せば、人を差別するなかれ、概して人は視覚に惑わされやすい弱点があり、大切な本質や真実を見失いがちなので、十分気をつけなさい、ということだったろう。

それを逆手にとって、見かけや身なりは他人を騙せるぞ、自分をもっと高く立派に見せかけられるぞ、と悪魔の囁きは日々私たちを誘惑する。

確かに美しさとは素晴らしいことで、人に喜びを与える。お洒落は人生を豊かにし、また心も元気にもなれる。しかし外見ばかりに行き過

「内面の美しさに磨きをかけよう」



ぎたこだわりは、あまり品の良いものではない。かつて、男性の背広やシャツを作り続けていらっしゃる会社の社長さんにお話を伺ったことがある。

「男性の背広とは、ある種の鎧であり、無言の自己表現である。しかし、それを着用する最も大切な理由は、相手への敬意を表すものだからなのだ」と。

内面と外面の不一致は不自然であり、真の美しさから乖離する。また外見ばかりに執着するのは、内的コンプレックスの象徴だともとれる。

高価な服をたとえば、特別な存在の自分が誕生する、な

どという欺瞞が未来を担う子供たちの常識とならないことを願う。

「虎の威を借る狐」ばかりの日本になれば、本来の私たちの持つ良さが立ち消えてしまう。

私たちはどの国にも負けない「内面の美しさ」に磨きをかけよう。2020(平成32)年の東京五輪・パラリンピックで、日本は人間性の金メダルを目指し、世界から真の尊敬と信頼を勝ち得る国となれるように。

(さとう・しのぶ 一声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

